はじめに

教育研究所長　　千葉　杲弘

ＩＣＵ教育研究所紀要「教育研究」第36号をお届けします。本年も大勢の方々から投稿の依頼があり、一部の方には次号にまわして頂くようお願いする程でした。はじめに研究所員の皆様の御協力に感謝いたします。

さて、本年度をもって教育心理学の原一雄先生が御退任になられます。1961年より33年の間ＩＣＵのために御奉職下さり、ＩＣＵの教育心理学研究室、教育学科、大学院の発展に多大な御貢献を頂きました。特に先生は、大学制度改革に関連して大学の自己評価については日本国内だけでなく国外にも日本の第一人者としてその御貢献が知られておりますが、先生の御退官を記念して、本号は、大学改革の問題を中心にした特集号といたしました。

従いまして、本号には大学問題に関連して教育学科が主催した天城勲先生の御講演も掲載することに致しました。文部次官をされ日本教育行政の中心的存在でおられた天城勲先生が教育学研究でされた御講義です。ここに先生の御協力に謹んで謝意を表明いたします。

教育研究所も現代的課題に取り組むべくいろいろ努力して参りましたが、本当にわずかですが、アフリカ教育、識字問題、大学改革・自己評価等の分野でデータベースが整備されつつあり、この分野で内外の研究者と御協力出来るようになりつつあります。また他の分野でも、ＩＣＵの教育研究所にふさわしい課題がありましたら、御指示下さるようお願い申し上げます。

厳しさと優しさの調和
原　一雄先生の御功績とお人柄

教育研究所長　　千葉　杲弘

これまで引退ということは、明治大正生まれの人々のことで、昭和の世代はまだまだ若く引退など当分先のことと思ってきました。しかし、原先生が御引退されることになり、いよいよ昭和の世代にも火がついたという感じが致します。ＩＣＵの若手としてＩＣＵの発展を支えてこられた昭和の世代にもやはり世代交代の波が押し寄せてきたようです。

原先生は、1961年にＩＣＵの教養学部の講師として御着任になられ、1963年に助教授、1966年に準教授、そして1973年に教授になられました。また御退官に際してＩＣＵは、名誉教授として原先生の御功績を称えることになりました。原先生は、33年間の長きにわたってＩＣＵの発展を支えられ、またＩＣＵの苦悩と共に生きて来られました。初代の先達岡部弥太郎先生、モーリス・トロイヤー先生の築かれた教育心理学研究室を引き継がれ、今日の研究室のあるのも一重に原先生の御尽力によるものと思われます。

私は専門分野を異にするので、原先生の学問上の御功績については述べる資格はありませんが、日本学術会議心理学会連絡委員、文部省学術審議会専門委員、また日本心理学会の編集委員や基礎心理学会、生理心理学会の常任運営委員として学問的な責任の要にあられたことからも、先生の学問的な高い評価を伺い知ることが出来ます。

また日本のリベラルな教育学者や教育者が集まって結成している民主教育協会に於いても、日本を代表する教育学者の一人として日本の大学教育の民主化の為に御尽力頂きました。特に大学の自己評価の面では、日本における

第一人者として広く知れわたっており、大学基準協会の入試検討委員、学芸学部・教養学部設置基準改訂委員、私大連大学問題研修委員として御活躍なされました。

原先生は、学問の面では非常に厳しい方でいっさいの妥協を許しません。先生の指導の下に論文を書いた学生達は一様に先生の学問に対する厳しさに圧倒され、中にはついて行けないと中途で放り出しそうになる学生も出るようですが、やはり先生の人間性の優しさがこうした学生の励みとなり、数多くの優秀な学生を輩出して来られました。こうした先生の信念に基づく一貫性は学生指導の面だけではなく、大学の行政の面でもはっきりと示され、とかく学内政治に無上の喜びを感じる輩にとっては煙たい厳しい存在であったようです。

学内では入学事務部長、教養学部副部長、一般教育主任、大学院教育研究科科長等を歴任され、ＩＣＵの発展に寄与されましたが、原先生のＩＣＵの一般教育に対する情熱は他に追従を許さず、ＩＣＵの一般教育の発展のためには並々ならぬ御尽力を頂きました。

現在大学改革の波が日本で荒れ狂っており、全般的に教養学部とか一般教育は衰微の一路をたどっているような様相を呈していますが、ＩＣＵの拠り所でもある教養学部制と一般教育はたとえ日本でただ一つの例となっても歴史に残るモデルとして、また将来の教育観が一層一般教育を重視するような原動力となるようなものとして、ただ単に存続させるだけでなく、一層改善発展させるべきだということを先生は常に主張されておられます。筆者も原先生に賛同する一人であることを併記させていただき、原先生の御志しを継いで努力する所存でおります。先日の会合でＩＣＵの一般教育を後輩の私どもが立派に育て上げないときには「バケて出る」と御宣言され、その情熱と決意の一端を御披露されました。

33年間のＩＣＵの御在勤期間、私は同僚としてはほんの２年半のおつきあいでしたが、非常に長い知己という感じが致します。それもやはり先生のお人柄によるところが多大ですが、実は海外大学教育総合調査団の一員とし

て1963年から64年にアメリカ、ヨーロッパを視察された際に先生を当時の青山学院大学の院長先生と御一緒に一夕パリの拙宅に御招待したことがありました。まだ充分におもてなしの術も知らぬ駈け出しの私共でしたが親しく励ましを頂いたことがついこの間のように憶い出されます。教育研究所の一同を代表して、先生の御健康と一層の御活躍をお祈り申し上げます。

原　一雄教授略歴ならびに主要業績

［略　歴］

1929年3月11日　大阪市北区野田町に生れる
1945年4～10月　海軍兵学校舞鶴分校に在学、終戦にて復員
1950年3月　大阪第一師範学校卒業
1950年4～　9月　大阪府中河内郡縄手小学校教諭
1953年6月　アメリカ合衆国カリフォルニヤ州サンノゼ州立大学卒業、数学／心理学で B.A. の学位と優等・学科賞を受ける
1954年8月　サンノゼ州立大学より心理学にて M.A. の学位を受ける
1956年9月　スタンフォード大学大学院心理学科研究助手
1959年9月　スタンフォード大学医学部生理学研究室助手
1960年6月　スタンフォード大学より心理学にて Ph.D. の学位を受ける
1961年4月　国際基督教大学教養学部社会科学科講師
　第一女子寮アドバイザー兼任
1962年4月　第三女子寮アドバイザー併兼任
1962～64年　国際基督教大学学生指導副学長行政補佐
1963年4月　国際基督教大学教養学部教育学科助教授
1964～65年　ペンシルヴァニヤ州立大学動物行動研究所研究員
1966年4月　国際基督教大学教養学部教育学科準教授
1966～68年　国際基督教大学入学事務部長
1970年1月　プエルト・リコ大学医学部神経生理学客員教授
1970～71年　米国国立衛生研究所周産期生理学研究所上級研究員
1972～74年　国際基督教大学教養学部副部長
1972～74年　日本語サマー・プログラム開設準備委員会副委員長
1973年4月　国際基督教大学教養学部教育学科教授
1978～79年　コロラド大学行動遺伝学研究所客員研究員
1981～83年　国際基督教大学教養学部一般教育主任
1984～85年　日本研究プログラム設立準備委員会委員長
1985～86年　コロラド大学行動科学研究所客員研究員
1987～91年　国際基督教大学教養学部一般教育主任
1992年～　国際基督教大学大学院教育学研究科長

この間、日本学術会議心理学会研究連絡委員、文部省学術審議会専門委員、日本心理学会編集委員・同『執筆投稿手引き』編集委員、日本基礎心理学会常任運営委員・常任編集委員、日本生理心理学会常任運営委員・副編集委員長・第11回学術大会会長、一般教育学会常任理事・編集委員長、日本私立大学連盟研修企画委員会副委員長・大学問題研修運営委員、大学基準協会入試検討委員・学芸学部／教養学部設置基準改訂委員等を歴任す。

また、東京神学大学、千葉大学、東京工業大学、岡山大学、宮城教育大学、筑波大学、国際大学、東京都立大学等において非常勤講師を勤む。

［著　書：共著／分担執筆］

1．「入学者の選抜・厚生補導・育英奨学について」『海外大学教育総合調査団報告書』 民主教育協会 1964
2．「試験」『事典 現代を考える』 読売新聞社 1967
3．「心理学の生物学的基礎」『心理学通論』 新曜社 1972
4．「環境心理学の視座と使命」『環境心理学』 朝倉書房 1976
5．「国際基督教大学の事例」『大学設置基準の研究』 東大出版 1977
6．「視覚認知における大脳半球左右非対称性の研究」『ことばの発達』 文化評論出版 1978
7．「暮しよさを求めて」『都市環境と住まいの心理学』 彰国社 1978
8．「大脳半球の統合」『現代基礎心理学 第12巻』 東大出版 1981
9．「心身の相関」『行動科学入門』 北樹出版 1982
10．「ラテラリティ」『生理心理学』 朝倉書店 1985
11．「意識の次元」『認識と行動』 倍風館 1985
12．「喫煙行動の心理学的モデル」『たばこを考える』 平凡社 1987
13．「半球間統合：動物実験」『高次脳機能の生理学』 医学書院 1988
14．「よい授業とは何か／試験で何を測定し、どう評価するか」『ＦＤハンドブック』 大学セミナーハウス 1993
15．「生理心理学」『心理学基礎論文集：昭和記念集』 新曜社（印刷中）

［訳　書］

1．G.W. オルポート 『人格と社会との出会い』（共訳） 誠信書房 1972
2．J.A. パーキンス 『明日の高等教育』 研究社 1975
3．W.L. ダン 『喫煙行動』（共訳） 人間の科学社 1976

4．A. ラザーソン編 『図説 現代の心理学 4』（共訳） 講談社 1977
5．J. ブラウン 『認知と言語の神経心理学』 新曜社 1978
6．R.E. ソーントン 『喫煙行動』（監訳） 専売弘済会 1982
7．R.D. トリソン 『喫煙と社会』（共訳） 平凡社 1987
8．A. ウェテラー他 『ひとはなぜたばこを喫うのか』（監訳）新曜社 1988

［論　文：生理心理学関係］

1．"Behavioral effects of posterior association cortical lesions in cats." *Dissertation Abstracts*, **21**, 4. (1960)
2．"Distribution of training and reversal learning by cats." *J. of Genet. Psychol.*, **96**, 105−113. (1960)
3．"Stimulus additivity and dominance in discrimination performance by cats." *J. of Comp. & Physiol. Psychol.*, **54**, 86−90. (1961)
4．"Equivalence reactions by normal and brain−injured cats." *J. of Comp. & Physiol. Psychol.*, **54**, 86−90. (1961)
5．"Visual defects resulting from prestriate cortical lesions in cats." *J. of Comp. & Physiol. Psychol.*, **55**, 293−298. (1962)
6．"The effects of unilateral lesions in sensorimotor cortex on manipulation by cats." *J. of Comp. & Physiol. Psychol.*, **55**, 1130−1135. (1962)
7．"Impaired learning by monkeys with unilateral lesions in association cortex." *J. of Comp. & Physiol. Psychol.*, **56**, 241−153. (1963)
8．"Alternation and delayed alternation by cats with premotor lesions." *J. of Comp. & Physiol. Psychol.*, **56**, 824−828. (1963)
9．"Role of forebrain structures in emotional expression in opossum." *Brain Research*, **52**, 131−144. (1973)
10. "Posterior extramarginal cortex and visual learning by cats." *J. of Comp. & Physiol. Psychol.*, **87**, 884−904. (1974)
11. "Stimulus characteristics and the interocular transfer of discrimination learning in the forebrain commissurectomized Rhesus Monkey." *Educational Studies*, **17**, 97−101. (1974)
12. "How Far Down can We go to find Our Consciousness?: Comments on Dr. Preilowski's Paper" *Hiroshima Forum of Psychology*, 1−7. (1976)

13. 「マウスの逆転学習セットに及ぼすニコチン長期投与の影響 その２：多世代継続投与による薬物耐性」『動物心理学年報』 **33** (2), 116. (1984)
14. 「生理心理学における動物実験の開発と展望」『生理心理学と精神生理学』 **2**, 51. (1984)
15. 「皮質損傷実験の長短と功罪」『生理心理学と精神生理学』 **2**, 57−59.(1984)
16. 「マウスの疲労耐性に及ぼす多世代継続ニコチン投与の影響」『動物心理学年報』 **35** (1), 49−50. (1985)
17. "Posttraining commissure section and interocular transfer of discrimination learning." *Educational Research*, **33**, 25−36. (1991)
18. 「感情の生理心理学的測定法をめぐって―動物の脳損傷実験の役割」『生理心理学と精神生理学』 **10−2**, 103−105. (1992)

［論　文：社会心理・教育評価関係］

1. "A study of certain attitudes and their personality correlates among Japanese−Americans" *Educational Research*, **8**, 163−211. (1961)
2. 「社会的態度に関する一研究―(1) Stereotypes を通してみた文化変容―」『教育研究』 **9**, 125−139. (1962)
3. 「社会的態度に関する一研究―(2) 意味分析に表れたある緊急事態における学生の社会的態度」『教育研究』 **10**, 143−149. (1963)
4. 「大学生の職業的価値観」『教育研究』 **13**, 108−129. (1968)
5. 「入学事務部設立の勧め」『大学基準協会会報』 **14**, 56−60. (1968)
6. 「大学教育の綜合評価（その１）―大学における学校評価と国際基督教大学のための試案」（渡辺幸一共著）『教育研究』 **14**, 123−139. (1969)
7. 「大学教育の綜合評価（その２）―ＩＣＵ在学生による学生生活の評価」（岩瀬純一・中山和彦共著）『教育研究』 **14**, 141−155. (1969)
8. 「大学生の道徳的価値指向」『基督教文化学会年報』 **16**, 16−27. (1970)
9. 「大学教育の綜合評価（その３）―卒業生による学生生活の評価」（土屋静子共著）『教育研究』 **15**, 49−85. (1971)
10. 「大学教育の綜合評価（その４）―在学生・卒業生・教職員による学生生活の評価の比較研究」（中山和彦・星野悠子・岩瀬純一・土屋静子共著）『教育研究』 **16**, 35−54. (1972)
11. 「人間科学探求の前提」『世界政経』 **5**, 214−221. (1974)
12. 「『環境心理学』考」『教育研究』 **18**, 95−117. (1975)

13. 「出題者の真意」『現代の高等教育』 **154**, 37−41. (1975)
14. 「入学試験について考えること」『児童心理』 **29** (3), 148−153. (1975)
15. 「戦後の私立大学」『大学時報』 **24** (124), 6−13. (1975)
16. 「アメリカにおける大学教育の評価システムについて」『信学技報』 **75** (223), 41−44.
17. 「卒業生によるＩＣＵ在学経験の評価」『教育研究』 **19**, 65−111. (トロイヤー, M.E.・原 喜美・田中清彦共著) (1976)
18. 「Ｊ．Ａ．パーキンス氏の高等教育の展望」『現代の高等教育』 **171**, 35−42. (1976)
19. *Alumni Evaluation of Their ICU Experience*. ICU, Pp.57 (with M.E. Troyer, Kimi Hara & Kiyohiko Tanaka) (1976)
20. 「生涯教育の理念と高等教育における実践—関連用語の考察を通して」(村上初穂共著)『教育研究』 **20**, 57−73. (1977)
21. "In Quest of New Transdisciplinary Concepts of 'Environment' in Education and Culture." *Educational Studies*, **20**, 77−90. (1977)
22. 「生涯教育に関する用語集」『外国教育事情』 **4**, 6−26. (1978)
23. 「一般能力検査 (SAT) の追跡研究：その１　変遷と現状 (1961 ～ 1977)」(石本菅生共著)『教育研究』 **22**, 71−89. (1979)
24. 「国際基督教大学における教育環境調査の試み」(牧野文恵・松村治子・村山興子・島田博美共著) 『教育研究』 **23**, 111−127. (1980)
25. 「ＩＣＵ在学生の職業的価値観の比較研究— 20 年前との比較」(笛田理恵子・石塚正一共著)『教育研究』 **26**, 47−63. (1984)
26. 「ＩＣＵの教育的環境の調査研究—他大学との比較」(植田淳子・石塚正一共著)『教育研究』 **26**, 65−83. (1984)
27. 「ＩＣＵ在学生の人生観の調査研究— 20 年前との比較」(岩崎正子・石塚正一共著)『教育研究』 **26**, 85−106. (1984)
28. 「私大連盟における大学評価 — 自己点検その後」『現代の高等教育』 **251**, 13−18. (1984)
29. 「領域別学習能力検査の妥当性の検討」ＩＣＵ教育研究所編『大学入試における学力テストと能力テストの比較研究』 8−41. (1984)
30. 「[大学連合論] 考」『現代の高等教育』 **257**, 16−23. (1984)
31. 「大学教員評価の視点 その２．方法と基準について」(絹川正吉共著)『一般教育学会誌』 7 (2), 63−65. (1985)

32. 「[講義] 雑感」『大学時報』 **34** (183), 64−69. (1985)
33. 「大学教育と入学者選抜方法」『ＩＣＵ教育研究』 **27**, 87−100. (1986)
34. "A Transdisciplinary Model for the Concepts of 'Environment' and Survey Studies of College Atmosphere." *Cross Cultural Research in Environment and Behavior*, University of Arizona. 101−116. (1986)
35. 「大学教員研修プログラムの実践的課題」『一般教育学会誌』 **8** (2), 61−65. (1986)
36. 「国際基督教大学の一般教育」『大学と学生』 **249**, 23−27. (1986)
37. 「国際基督教大学における入学者選抜について」『大学入試フォーラム』 **7**, 71−80. (1986)
38. "Self appraisal of international experiences on campus: Comparisons among subgroups of university constituents", In Hara, K.(ed.) "*The Internationalization of Higher education.*" ICU, 269−278. (1987)
39. 「一般教育のカリキュラムと実施体制（Ｉ）」『高等教育研究紀要』 **7**, 27−39. (1987)
40. 「一般教育の自己評価」『一般教育学会誌』 **9** (2), 37−43. (1987)
41. 「日本私立大学連盟とＦＤ活動」『大学時報』 **37** (199), 86−93. (1988)
42. 「ＦＤとＳＤ」『学校法人』 **11** (7), 2−6. (1988)
43. 「国際基督教大学における大学教育研究体制の構想」『一般教育学会誌』**11** (2), 16−19. (1989)
44. 「日米学生サービス比較」『現代の高等教育』 **305**, 49−55. (1989)
45. 「ＩＣＵ在学経験の評価」『教育研究』 **31**, 51−78. (1989)
46. 「大学キャンパスの認知マップ：（１）教育環境の意味次元と学園施設の評価」（大井直子・川戸さえ子共著）『教育研究』 **32**, 23−39. (1990)
47. 「大学キャンパスの認知マップ：（２）教育プログラムの評価と教育環境の役割」（川戸さえ子・大井直子共著）『教育研究』 **32**, 41−60.(1990)
48. 「国際基督教大学の教育改革」『大学教育改革の方法に関する研究— Faculty Development の観点から』 39−44. (1990)
49. 「単位制度と必修・選択制」『大学基準協会 会報』 **64**, 16−22. (1990)
50. 「私立大学の試みから」『大学評価』 44−47. (1990)
51. 「今こそ大学人の力量が問われるとき」『現代の高等教育』**320**, 31−36. (1990)
52. 「大学の自己点検・評価 − その主体と対象」『一般教育学会誌』 **13** (1), 27−31. (1991)

53. 「一般教育科目受講態度の要因分析」『一般教育学会誌』 **13** (2), 67−73. (1991)
54. 「学生による授業評価」『大学時報』 **40** (220), 70−77. (1991)
55. 「授業計画と授業評価」『現代の高等教育』 **332**, 5−13. (1992)
56. 「ＩＣＵにおける大学生の価値観研究」『アジア文化研究 別冊 ３』（大井直子・岡林秀樹共著） 91−100. (1992)
57. 「編入制度の基本原理と運用上の障壁」『一般教育学会誌』 **14** (2), 10−13. (1992)
58. 「教師自身による自己診断」『一般教育学会誌』 **14** (2), 25−27. (1992)
59. 「大学の自己点検・評価：教員間の比較」『一般教育学会誌』 **14** (2), 76−78. (1992)

［報告書］

1. *The Internationalization of Higher Education*. PRAHE, 1987.
2. 『一般教育プログラムの変遷 Ｉ．カリキュラム篇』 ICU 1988
3. 『教学計画調査委員会報告書』 ICU 1990
4. 『ＦＤプログラム参考資料集』 ICU 1991
5. 『一般教育プログラムの手引』 ICU 1991
6. 『一般教育プログラムの変遷：Ⅱ．関連統計・資料篇』 ICU 1992
7. 『大学教員の教授資質開発（ＦＤ）プログラムの策定と実践的試行　平成２年度科学研究費補助金（一般研究Ｂ）研究成果報告書』1991
8. 『少年相談の効果的推進法に関する調査』 カウンセリング研究会 1991

（他に書評、随筆、座談会・講演記録等、約 90 篇）